



戦争をさせない
1000人委員会
Anti-War Committee of 1000

信州ニュース

戦争をさせない1000人委員会・信州 2014年8月12日 第4号

〒380-0838 長野市県町 532-3 県労働会館

電話 026 (234) 2116 FAX 026 (234) 0641 E-mail vi4h-kt@asahi-net.or.jp

HP <http://sensowosasenainshinshu.jimdo.com/>

twitter https://twitter.com/1000_shinshu

facebook <https://www.facebook.com/sensowosasenainshinshu>

160人が参加 「1000人委員会・まつもと」が結成総会

8月9日、県松本勤労者福祉センターで「戦争をさせない1000人委員会・まつもと」の発足総会・記念講演会を開催。総会には約160名の市民が参加し、活動方針とアピール文を採択しました。

呼びかけ人は60名。総合司会は佐藤まり子さん（キャリア・コンサルタント）。開会あいさつをした又坂常人さん（信州大学特任教授・行政法）は、安倍政権の強引なやり方に対し「憲法をどう読んだら集団的自衛権を行使できるのか。幅広い運動をつくり、主権者の責務としてブレーキをかけたい」と述べました。

記念講演会では、半田滋さん（東京新聞論説兼編集委員）が「日本は戦争をするのか」と題して、プロジェクターなどの説明を交えながらの講演を行い、「日本は戦争をするだろうか。安倍晋三政権が長く続けば続くほど、その可能性は高まるといわざるを得ない。憲法九条を空文化することにより、自衛隊が国内外で武力行使する道筋がつけられるからである」としました。講演後には、神津ゆかりさん（ピース・プロジェクト）が活動方針を提案し、満場一致で採択されました。

呼びかけ人スピーチには、代表して5名が登壇。小岩井孝さん（日本映像学会会員）は「集団的自衛権行使に明確な賛否を持たない人たちに考えてもらいたい」と強調。西村忠彦さん（きけわだつみの声70年の会代表）は「市民の声を封じる動きが強まっている。先の戦争でも、そうやって戦争に突き進んだ。市民運動で跳ね返していく」とし、田中欣一さん（日本思想史家）は「戦争に向けた動きが様々な形で現れている。無関心な人も多いので、幅広く運動を広げなければいけない」、竹内忍さん（信濃むつみ高校教頭）は「7月1日の閣議決定の時は、生徒の顔をまともに見ることができなかった。若い世代にも分かるように訴えていきたい」、福島昭子さん（みんなの学校 in まつもと企画委員長）は「私は戦争時を体験している。戦争からは何も得られない。日本の平和憲法を世界遺産に」と訴えました。

スピーチ終了後には、アピール文作成に携わった金井奈津子さん（フリーライター）から、経過とアピール文に寄せる思いが述べられ、松岡美奈さん（県教組松塩筑支部）が朗読しました。今後は、県内20万人署名の取り組み、学習会、街頭宣伝などを展開していきます。（報告：平谷）



講演する半田滋さん（東京新聞）

上伊那地区では50人が参加して成澤孝人教授の学習会

上伊那地区では8月8日、南箕輪村民センターで「集団的自衛権」閣議決定をテーマに学習会を開きました。講師は「戦争をさせない1000人委員会・信州」の呼びかけ人でもある成澤孝人氏（信州大学教授）。参加者50人のうち、半数以上が若い方々でした。

数年後か10数年後、本当に他国の紛争に日本人が生死をかける日が来ることなどあるのか、とっていた頃合いで、成澤先生に具体的なお話をいただきました。聞き入っていた若い参加者の方々には、決して人ごとで無い自身の将来（未来）を揺るがす内容に、とても納得のできる内容ではないと悟っていただいたことと思います。でも一方では、そんなことにはならないのでは…と安易な思いも脳裏をよぎったかもしれません。

69年前に悲惨な体験をした沖縄・広島・長崎の方々（その他空襲を受けた地域）は、家庭でも代々その恐ろしさ・悲惨さを語り継いできたことと思いますが、それ以外の方々はその継承が途切れてしまっていることと思います。自分の未来を守るためにも、今一度戦後までの歴史をふり返ることで、日本国憲法が戦後の69年間、我が国と国民を守ってくれた平和憲法であることの大切さを再認識いただけることを期待します。（報告：北原）